

教えて先生!

# お母さんたちが知りたい 子育て・教育のギモンQ&A

～くもんの先生がお答えします～

子育てに関する悩みや疑問、お母さんひとりで悩んでいませんか？  
長年、子どもたちを指導しているくもんの先生が、お母さんたちの疑問にお答えします。

答えてくれたのは

長崎欽州教室  
そえじま たかこ  
副島貴子 先生



子どもたちに基礎学力を身につけてもらうことはもちろん、思考力・判断力を高めることも大切にしながら指導をされている。全国で行われる研修にも参加し、日々学び続ける熱心な指導者。

長崎茂木教室・長崎中央橋教室  
いけやま としみ  
池山利美 先生



40年のキャリアを誇るベテラン指導者。乳幼児指導に造詣が深く、長年、保護者と二人三脚で子どもたちの成長に携わってきた。茂木と中央橋、2教室の指導・運営をされている。

## Q.1

### 乳児期にしてあげたらいいことはありますか？

### A

池山先生「まだ言葉を扱えない乳児さんは働きかけへの反応がわかりにくいと思います。ただ、リアクションが少ないからこそ、お母さんがこれと思ったことを何でも試すことができることも素晴らしい時期だと思います。何歳であつても、子どもは親の言うことすることをよく見ていますし、意味を理解していなかったとしても映像として

記憶に残っています。お母さんが子どもにいいと思うことを何でもやってあげてください。この時期のインプットは子どもの可能性を大きく広げることにつながります。

お母さんが赤ちゃんへの働きかけを楽しむことは、お子さんにとつて最良の環境づくりですから、お子さんへの働きかけを大いに楽しんでいただきたいです。

## Q.2

### 「基礎学力」と「考える力」どちらを大事にしたらいいですか？

### A

池山先生「ご自身のお家を建てることを考えてみてください。基礎がなければ丈夫なお家は建ちませんよね？まして、2階3階建ての立派なお家を建てるようと思えば、それだけ強固な基礎が必要になるはずです。学びも同じ。新しいものを発想したり、自分

の考えをわかりやすく人に伝えたり、高度な思考をするためには確かな基礎学力が必要になると私は考えています。まずは基礎となる読み書き計算を修め、たくさん読書の書物に触れ、古今東西様々な考え方を知っていく中で、考える力を養っていくとよいのではないのでしょうか。

## Q.4

### 分数の授業が分からないと言っています。今からでも間に合いますか？

### A

副島先生「もちろん間に合います。くもんではまず診断テストをしてどこが分からないのか把握します。分数そのものの意味がわからないのか、計算の仕方がわからないのか、習熟が足りないのか、文章問題の言葉がわからないのかで対処の仕方は変わってきます。くもんでは分かるところから学習をスタートします。子どもさんに寄り添って、一緒に分からないことを克服し、自信をつけてあげることで分数もできるようになるし、算数全般にも学習意欲が高くなります。

## Q.6

### 子どもを伸ばすために家庭で心掛けることはありますか？

### A

副島先生「一番は誉めることです。どの子も良いところを持っています。この子はどんなものに興味や関心を持ち何が得意なのか、見極めて環境を整えてあげること、子どもの持てる力をさらに伸ばしていきます。また結果だけでなく、やっている過程も認めてあげること、自己肯定感も育っていきます。思いやりを持ち前向きに乗り越えられる力をもつけて豊かな人生を歩んでほしいですね。

## Q.5

### 中学、高校受験を考えています。どんな力が必要ですか？

### A

副島先生「基礎学力はもちろんですが、高い集中力、読解力、思考力、判断力などは必要になってきます。くもんでは学年を越えて学習することがあります。自分の学年より2学年3学年を越えて学習している子どもたちは、学校でも自信を持って学習することができ、受験勉強でも余裕

を持って学習することがあります。また、くもんが目指している自学自習で、受験する学校の過去問を解き受験の準備をすることがあります。また大きく学年を越えて学習しているお子さんは、進学後の学習にも意欲を持って取り組み、生き生きとした学校生活をおくることができます。

## Q.3

### 読み書きの練習は何歳頃から始めたらいいいのでしょうか？

### A

池山先生「数字やひらがなが気になるお母さんは多いですよ。読み書きを覚えるのはとても大切なのですが、小さい子にはまず手先を使う練習から始めることをお勧めしたいです。手は頭の一部。パズルや漢字カード・磁石盤など手を使う機会をたくさん持った子は、読み書きのための記憶力と作業力が高まります。そしていざ

「文字を書きたい！」「数字を書きたい！」と思ったときに無理なく力をつけることができるようになるのです。子どもを伸ばすコツは「待つ」ことです。読み書きという目に見える成果が気になる気持ちはよくわかります。しかし、強いたり試したりするのはなく、子どもが自ら表現してくれるのを「待つ」ことがとても大切ですよ。



よくできました!

MESSAGE!

### くもんの先生メッセージ

くもんの教室には本当に色々な子どもたちが来てくれます。学ぶことが好きでぐんぐん伸びていく子もいれば、学びに前向きになれない子もいます。そんな子どもたちが、コツコツと学びを重ねていき、ある日バツと「開く」瞬間。とても嬉しい瞬間です。「くもんの先生」は、子どもたちの成長を応援したいという思いを自由に実現できる仕事です。自分の想いを実現したいあなた、くもんの先生になってみませんか。

くもんの先生についてのお問い合わせ  
公文教育研究会 長崎事務局

0120-834-414



くもんの先生